

議長、これについて賛否を諮つたところ、異議なく原案どおり承認された。

・第5号原案：副会長退任及び選任の件

昭和58年4月15日開催の第6回理事会及び第2回評議員会において承認された石原副会長の退任及びその後任として斎藤理事が技術担当理事兼務で副会長に推薦された旨議長から説明があり、本件について賛否を諮つたところ、異議なく満場一致で斎藤理事が後任副会長に選任された。これを受けて、同副会長から就任の挨拶が行われた。

・第6号議案：名誉会員推薦の件

高橋議長から去る4月15日開催の第6回理事会及び第2回評議員会の承認により、次の2会員の名誉会員推薦を諮つたところ、満場一致で推薦された。

名誉会員 今村次郎

〃 巨理 厚 (昭和58年1月24日逝去)

高橋会長より各名誉会員に記念品が贈呈され、代表して今村名誉会員から挨拶が行われた。

4. 第33回自動車技術会賞授賞式

5月18日(水) 15:25~16:00 東条会館 1階ホール

授賞式は高橋会長の挨拶に引続き中塚総務担当理事から選考経過報告が行われたのち、6名の授賞者に対しそれぞれ受賞状及びメダルが授与された。

《浅原賞学術奨励賞》

(1) ターボチャージャーの羽根枚数の減少に関する研究

(受賞者) 西口 文雄君 日産自動車(株)

(受賞の理由) 「ターボチャージャーの羽根枚数の減少に関する研究」(日産技報No.18, 1982)と題する論文において、ターボチャージャのタービン翼車内の内部流れの解明により、独自の曲り翼を開発し羽根枚数を減じて、翼車の慣性モーメントの低減をはかり、ターボチャージャー付き機関搭載車の加速性を著しく改善したことを報告している。

この研究に際して、同君は、タービン翼車内の流れの理論的数値解析により、タービンロータ入口の速度分布、とくにハブの速度分布を改善するように曲り翼を採用し、翼面負荷を改善し、空力性能の低下をおこさないで、羽根枚数を減ずることを可能とした。この設計概念により、従来の11枝翼を9枚に減じ、翼車の慣性モーメントを25%減少することに成功した。

同君は、解析を巧みに利用し、創造に結びつけ、自動車技術の進展に大きな寄与を行い、将来にわたる大きな貢献が期待できるものである。

(2) 濁室式ディーゼル機関からの微粒子状物質排出特性の研究

(受賞者) 陰山 興史君 東洋工業(株)

(受賞の理由) 「濁室式ディーゼル機関からの微粒子状物質排出特性の研究」と題する論文において、ディーゼル機関から排出される微粒子状物質(パティキュレート)は大気汚染物質の一つとして有害視されているが、これは排気黒煙として規制されているすずと、多環芳香族等を含む有機溶剤に可溶の物質(SOF)とから成ることが知られている。従来、この両者を含めて粒子状物質としての実測研究は数多く発表されているが、これらを区別して測定した例は非常に少なく、その生成要因については明らかにされていない。

本研究は、副室式機関を各種の条件で運転し、すずと同時にSOF及び他の排気ガスを詳細に分析し、エンジンの運転条件と構造要因がすずとSOFの排出にどう影響するか、微粒子状物質におけるその比率はどのように変わるかを明らかにしている。この結果として、とくに重要なのは高負荷運転ではすずが多いが、低負荷域ではSOFが支配的となり、しかも大部分はエンジン油からもたらされるものであることを指摘している。

同君は化学分析を専門とし、その知識を十分に生かして困難な微粒子状物質の詳細な分析を行い、これをエンジンの燃焼と関係づけ、今後の微粒子状物質の低減に極めて有益な知識を与えたもので、自動車技術の発展に大きく寄与するものと期待される。

《浅原賞技術功労賞》

(1) 自動車の振動騒音の調査研究に関する多年の功労

(受賞者) 立石 泰三君

(受賞の理由) 同君の自動車振動騒音に関する業績は顕著なものがあるが、一部の関係者以外にあまり知られていない。

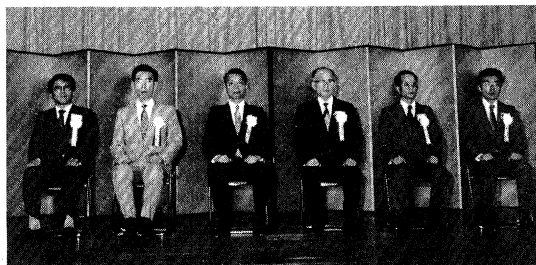
自動車の振動騒音は、安全性にも関係するので、品質評価上重要な因子の一つである。同君は、東京大学生産技術研究所巨理研究室の助手として20数年間この分野の調査研究に尽力し、地道な基礎データの収集、整理を根気強く行い、有益な情報を提供し、自動車技術の進歩向上への貢献は誠に大きい。

(2) 自動車用鋳物部品の合理化設計と信頼性向上に対する永年の功績

(受賞者) 矢野 満君 日立金属(株)

(受賞の理由) 同君は、永年一貫して自動車鋳物部品の信頼性向上のための研究を続けると同時に、合理化設計法を開発し、軽量化とコストダウンに応えた。

更に、この手法を発泡ウレタンモデルによる軽量化設計法、構造解析法に発展させ、鋳物部品の開発期間の短縮と開発コストの低減を達成している。



自動車技術会賞受賞者



懇親会

このように、市場要求の変化にしち早く広い範囲で対応してゆく鋳物技術を確立し、自動車技術の発展にも大きく寄与してきている。

《中川賞》

(1) エンジン制御電子システム及びその半導体装置に関する研究開発

(受賞者) 笹山 隆生君 (株)日立製作所

(受賞の理由) 同君は、パワートランジスターの研究からはいって、エンジンコントロールについてのエレクトロニクスシステムを開発してきたが、昭和42年より57年に至る15年間に29編に及ぶ業績を発表し、この分野における内外の技術の向上に貢献してきている。その業績は、いずれを見ても評価に値するすぐれたユニークなもののみならず、

今後自動車工学とエレクトロニクスとの総合化はますます進むものと考えられるが、その中において同君の今日迄に寄与したところは大きく、自動車技術の進歩に貢献することは極めて大である。

(2) 自己安定式後輪懸架装置の開発

(受賞者) 井上 等君 東洋工業(株)

(受賞の理由) 自動車の高速化に伴って、操縦性、安定性の向上は不可欠になつてくるが、このことは乗心地悪化を来たす方向に作用するというむずかしい問題であり、対策は種考案されているが、いずれもその制御には、コスト高が必要と考えられてきた。同君はこの点に着目して、特に前後荷重が後輪に作用した時のトーアウト変化を制御すべく、機構の考案に努力した。本技術は、トーイン変化に変えるようリンクを考案すると共に、コスト低減にあらゆる努力を惜しまず、前例を見ぬコストで達成することができた。特許も25件に及ぶ出願を行つている。これらは自動車技術の進歩に貢献するところ極めて大である。

5. 自動車技術会賞受賞者特別講演会

5月18日(水)16:15~17:15 東条会館1階ホールにおいて、第33回自動車技術会賞(浅原賞学術奨励賞)を受賞した西口文雄及び陰山興史君の両君による特別講演が行われた。

6. 懇親会

5月18日(水)17:30~19:30 東条会館5階スタールームにおいて、恒例の懇親会を催した。

文部省大崎学術国際局長、広田情報図書館課長、運輸省宇野交通安全公害研究所長、丹羽整備部長及び松波車両課長ほかの方々が来賓として参会された。

高橋会長の挨拶に続いて、豊田章一郎名誉会員の挨拶及び乾杯により幕をあげ、150名をこえる会員有志は青葉かおる一夕を和やかに歓談、親睦を深め、近藤名誉会員の万才三唱により盛況裡に懇親会を終了した。

7. 見学会

5月19日(木)東海道新幹線の架線故障というとんだハプニングがあり、被害を蒙つた会員もあつたが、5班にわかれ催した見学会は281名の参加者があり、見学先のご好意により会員それぞれ新しい知識を得ることができた。

1班	日産自動車(株) 座間工場	参加者	85名
2班	鈴木自動車工業(株) 湖西工場	"	42名
3班	ブリヂストンタイヤ(株) 東京工場	"	34名
4班	関東精器(株) 吉見工場	"	41名
5班	トヨタ自動車(株) 上郷工場・元町工場	"	79名

以上のとおり、58年度春季大会は入候にも恵まれ、盛況裡に全日程を終了することができた。

なお、秋季大会は中部支部の協力により、10月19日~21日の間、名古屋市の愛知県産業貿易館において開催される。

昭和58年度 事業計画

昭和58年度においては、前年度に引続き事業企画委員会の答申である会員サービスの向上、支部の充実、国際関係の強化の3分野に重点をおいて、更に事業をすすめる。

今や1万8千名をこえるに至つた会員、特に自動車技術の関連する分野の多岐化・拡大に伴い、ますます広がる会員層の要望に応えるとともに、第2回IPCをはじめとする国際的要請に対応して事業をすすめる。

1. 総会及び学術講演会等の開催

1.1 春季大会

58年5月17日から19日までの間、東京において次のとお

り春季大会を開催する。

学術講演会	17日(火)、18日(水)
研究懇談会	17日(火)
第37回通常総会	} 18日(水)
第33回自動車技術会賞授賞式	
浅原賞学術奨励賞受賞者特別講演会	
懇親会	
見学会	19日(木)

1.2 秋季大会

58年10月19日から21日までの間、名古屋において次のとお